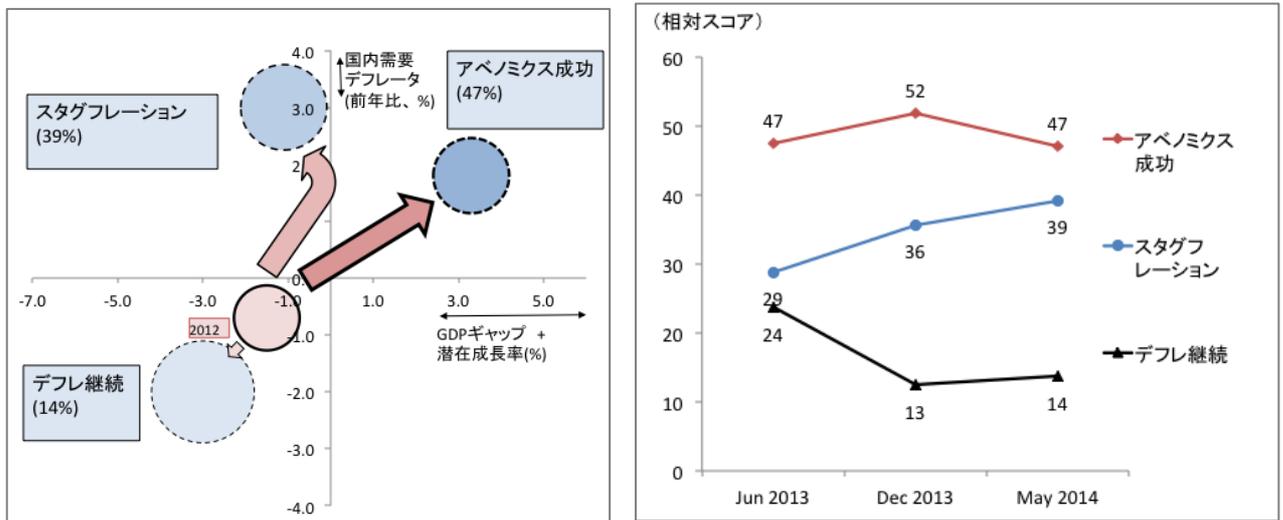


## リスク・スコアリング・ベクトル暫定評価結果（2014年6月時点）

### 「スタグフレーション」スコアが「アベノミクス成功」スコアに並びつつある

リスク・スコアリング・ベクトルの評価について、前回12月のアップデートから間もなく半年近くたつことから、2014年6月初旬時点の情報を元に再評価を行った。その結果、前回に続き「アベノミクス成功」のスコアが最も高かったが点数は低下（52%→47%）した。一方、「スタグフレーション」はスコアが上昇（36%→39%）し、アベノミクスとの差が縮まった。なお「デフレ継続」は前回12月時点で大幅低下した後、今回はほぼ横ばいとなった。

### 【図表：「スタグフレーション」シナリオのスコアが上昇】



「アベノミクス成功」のスコア低下の要因は、主に資産価格の動きが弱かったためである。

- ・ TOPIX は1年前と比較しほぼ横ばい、S&P500 対比で約▲20%アンダーパフォーム
  - ・ 不動産価格指数（住宅）が前年比マイナス（-1.0%、2013年12～2014年2月平均）
- また、物価上昇率に比べて賃金上昇が遅れている事もアベノミクス成功にはマイナスと判断し、今回アベノミクス成功シナリオの以下の項目の評価を下げた。

- ・ 成長軸の「金融指標/期待」、インフレ軸の「金融指標/期待」・「最近の動向」

外需に関しては、世界経済はIMF、OECDともに安定的な成長予測を出していることから、成長の「外部環境」の評価は引き上げた一方、輸出は足元の伸び悩みを受けて今後の予測も低下しているため、成長軸の「成長動向」の評価は据え置きとした。

今回、成長軸・構造改革スコアを前回のゼロから1に引き上げたが、これは設備投資の見通しが改善したためである。

今回、アベノミクス成功スコアが低下し、スタグフレーションスコアが上昇したのは、物価の上昇傾向が鮮明となる一方で、輸出の伸び悩み等で、スタグフレーションシナリオとの差である成長の牽引役についての不透明感が依然強く、どちらに転ぶか判別が難しい状況にあることを反映したためと考えられる。